

## 起業・事業所支援事業

推進

<b>事業年度</b>		<b>概要</b>				
令和元～3年度		名張市経済好循環推進協議会において新規創業者の増により経済の活性を目指す。また老舗の事業を継承する仕組みづくりを行うとともに、農業分野においても事業承継や大規模農業者の育成を行う。「1 継がれる側の人材育成」「2 継ぐ側の人材育成」「3 事業所の魅力再発見」「4 潜在労働者の掘り起し」を4つの柱として事業展開を図る。				
<b>事業費（令和3年度）</b>		<b>背景</b>				
3,025万円		これまで、雇用創出を図るべく平成28年度から新規創業者並びに創業間もない事業者、また子育て世代の女性活躍分野の支援を行ってきた。近年、経営難により老舗の事業所の廃業が増え、事業所が減少している。老舗には従業員がいる場合が多く、廃業すると創業者を増やすより経済損失が多い場合がある。新規事業者の獲得と、老舗の継続並びに承継を行う必要がある。				
<b>KPI①</b>	当プロジェクトによる事業所の営業可能年数の増	基準値	年度	R1	R2	R3
		0年 (H30年度)	実績	55年	128年	68年
			目標値	30年	20年	20年
<b>KPI②</b>	当プロジェクトによる雇用・起業家数	基準値	年度	R1	R2	R3
		0人 (H30年度)	実績	61人	161人	179人
			目標値	10人	30人	40人
<b>KPI③</b>	事業を継ぐ側のセミナー等参加人数	基準値	年度	R1	R2	R3
		0人 (H30年度)	実績	125人	329人	290人
			目標値	100人	200人	200人
<b>KPI④</b>	事業を継がれる側の企業・事業所側の参加数	基準値	年度	R1	R2	R3
		0事業所 (H30年度)	実績	128事業所	290事業所	387事業所
			目標値	50事業所	100事業所	100事業所
<b>事業内容</b>						
<事業所継続プロジェクトの主な取組> 各セミナー（事業承継、創業、M & A基礎知識など）の開催、事業承継個別相談、商店街月1イベントの開催 など <潜在的労働力活用プロジェクトの主な取組> 在宅ワーカー（イラスト、動画編集など）養成セミナー、子育て世代就職説明会など						
						

### ◆外部有識者による効果検証

検証の時期	令和4年7月
検証の体制	名張市地域活力創生会議による
市議会による効果検証の有無	有（時期：令和4年8月）
総合評価	地方創生に非常に効果的であった 全ての KPI を達成し、事業承継の実現が図れた。子育て世帯を中心に就労者数の増加が図れ、在宅ワーク等新たな働き方の提案が行えた。

<b>外部有識者からの主な意見</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用に関する意識調査「いきいきと働ける場が確保されていると思う市民の割合」が、非常に低いと感じた。工業団地もあり求人状況を見てみると雇用の場はあるイメージである。</li> <li>・名張市は伊賀市に比べると企業数が圧倒的に少なく、求人倍率も名張市が 0.8 倍に対し伊賀市は 2 倍である。</li> <li>・就職説明会へ参加すると市外の方や移住者に向けられているような印象がある。大学生の友達に聞いてみても、進学で転出した人はそのまま転出先で就職をする人が多いが、地域活動に関わった経験がある人はUターンなどで地元への定着率が高いと思う。もっと若い世代が地域に関わる仕組みや機会があればと思う。</li> </ul>	

# 赤目四十八滝『忍者・自然・精神』ニューツーリズム 推進

<b>事業年度</b>	令和元～3年度	<b>概要</b>	『忍者・自然・精神』をテーマに国内はもとより欧米系外国人をターゲットにニューツーリズムの創造と実践に取り組む。滞在型の「学術研究フォーラム」の開催や、また、旧旅館跡の未利用部分を「なばり忍者ミュージアム」として改修し、修験道や忍者をヒストリカルに展示しニューツーリズムの発信拠点としての役割を果たすよう取り組む。			
<b>事業費（令和3年度）</b>	499万円	<b>背景</b>	近年、赤目四十八滝には2,500人程度の外国人旅行者の入込があり、「自然」「精神」を好む欧米系の個人旅行者の割合が高いのが特徴となっている。しかしながら圧倒的に日帰りが多く、温泉旅館への宿泊等に結び付いていない現状があるなか、日本人観光客を含め、長時間滞在し、市内消費を促す仕掛けが必要となっている。			
<b>KPI①</b>	赤目四十八滝への延べ入込客数	基準値	年度	R1	R2	R3
		130,000人 (H30年度)	実績	△13,078人	4,280人 (121,202人)	△12,525人 (108,676人)
		目標値	前年比	6,000人増	前年比	20,000人増
		前年比	10,000人増			
<b>KPI②</b>	赤目四十八滝を訪れた外国人の延べ数	基準値	年度	R1	R2	R3
		2,500人 (H30年度)	実績	730人増	△2,040人 (1,190人/年)	140人 (1,330人)
		目標値	前年比	500人増	前年比	2,000人増
		前年比	2,500人増			
<b>KPI③</b>	赤目四十八滝エコツアーデスクでの体験メニュー利用者の延べ数	基準値	年度	R1	R2	R3
		9,000人 (H30年度)	実績	△2,532人	△1,189人 (5,279人)	△410人 (4,869人)
		目標値	前年比	200人増	前年比	300人増
		前年比	500人増			
<b>KPI④</b>	「(仮称) なばり忍者ミュージアム」への延べ入館者数	基準値	年度	R1	R2	R3
		0人 (H30年度)	実績	200人増	22,125人 (22,325人)	△3,332人 (18,993人)
		目標値	前年比	0人	前年比	50,000人増
		前年比	50,000人増			
<b>事業内容</b>		<主な取組>				
		忍者修行体験TikTok動画の作成及び配信、Visit Japanトラベル&MICEマート旅行商談会への出展、伊勢志摩サミット記念館で忍者に関する企画展示、忍者プロモーション資料（日英二カ国語版）の作成（ほか）				



## ◆外部有識者による効果検証

検証の時期	令和4年7月
検証の体制	名張市地域活力創生会議による
市議会による効果検証の有無	有（時期：令和4年8月）
総合評価	地方創生に相当程度効果があった 新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、目標達成には至らなかったものの全国的に観光客が減少する中、赤目四十八滝の入込客数は前年度より増となった。

### 外部有識者からの主な意見

- ・名張は「伊賀地域」の一部であり「忍者」という強力なコンテンツがあるにもかかわらず、なぜ伊賀市と一緒にプロモーションをしないのか。名張市はENN(広域連携)の枠組みの中での取組に注力していると思うが、伊賀市とももう少し連携をしてもよいのでは。
- ・名張地区は江戸川乱歩の生誕地というキラークンテンツがあり、まち自体が大変興味深い。建物の半分が町家であり、名張地域もこれだけコンテンツがあるので、町並み保存できるよう取り組んでいただけないか。

# 協働循環型社会を目指す東奈良名張 「竹灯り」SDGsプロジェクト

推進

<b>事業年度</b>	<b>概要</b>
令和2～4年度	環境保全活動である竹林整備で間伐された竹を再利用して竹灯りを作り、赤目四十八滝をはじめとする景勝地でのライトアップイベントの開催により、当該取組の観光商品化を目指し、観光誘客による経済の活性化を図る。また「竹あかりプロジェクト」をはじめ、圏域内の様々な観光資源を含めたインバウンド向けのプロモーションを行い、外国人誘客に取り組む。

<b>事業費（令和3年度）</b>	<b>背景</b>
598万円	モノからコトへとシフトする観光ニーズにおいて自然の中でのアクティビティ体験はもとより環境保全活動への参加ツアーなど人々の価値観も多様化しており、自然・歴史・文化を観光資源とし、自然体験志向の国内観光客や欧米系FITをターゲットに誘客に取り組んでいる当該圏域の観光産業の発展にはエコツアーの深化が不可欠となっている。

KPI①	名張市、宇陀市、曽爾村、御杖村、山添村、東吉野村の延べ観光入込客数	基準値	年度	R2	R3	R4
		3,416,508人 (R元年度)	実績	△854,863人	△189,351人 (2,372,294人)	—
		目標値	前年比 5,000人増	前年比 6,000人増	前年比 7,000人増	

  

KPI②	赤目四十八滝を訪れた外国人の延べ数	基準値	年度	R2	R3	R4
		2,904人 (R元年度)	実績	△1,714人	140人 (1,330人)	—
		目標値	前年比 2000人増	前年比 2500人増	前年比 3000人増	

  

KPI③	竹林整備及び竹灯りワークショップへの延べ参加者数	基準値	年度	R2	R3	R4
		0人 (R元年度)	実績	140人	63人 (203人)	—
		目標値	前年比 50人増	前年比 100人増	前年比 150人増	

<b>事業内容</b>	<主な取組> 竹林整備支援、赤目溪谷ライトアップイベント「幽玄の竹あかり」の開催運営（10/23～1/31）、環境学習会を兼ねた竹あかりづくり体験ワークショップの開催（14回開催、203人参加）、日英二カ国語によるSNS（5本）ブログ（2本）Tiktok（1本）によるプロモーション など
-------------	---



## ◆外部有識者による効果検証

検証の時期	令和4年7月
検証の体制	名張市地域活力創生会議による
市議会による効果検証の有無	有（時期：令和4年8月）
総合評価	—

<b>外部有識者からの主な意見</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 関西万博に向けてインバウンドが確実に拡大する。これを引っ張ってくるのに「忍者」のコンテンツは必須である。</li> <li>・赤目地域だけの観光にとどめるのではなく、名張地区や青蓮寺区、美旗地区なども含めた形でやっていく必要がある。実際、観光客を受け入れるのは各地域になるので、地域住民の方の協力や理解がないと成り立たない。地域への支援が必要である。</li> <li>・観光や移住に関係することだが、「縮充」を考える時期にきているのではないか。</li> <li>・事業エリアは行政区でいうと関西運輸局と中部運輸局と異なることもあり、事業展開が難しい。</li> </ul>

# 多文化共生社会実現事業

推進

<b>事業年度</b> 令和元～3年度	<b>概要</b> 名張市人権センター内に「多文化共生センター」を設置し、地域住民と外国人が交流するサロンの運営や交流イベント、専用ホームページの開設やリーフレット等による情報発信を行い、外国人に対する総合的な支援を行う。
<b>事業費（令和3年度）</b> 653万円	<b>背景</b> 令和元年6月1日時点で、人口78,550人のうち外国人住民人口が983人となり、この1年間で242人の増加となっている。本市が目指す地域共生社会は「すべての住民」が対象であり、日本語や日本の生活への理解、また地域コミュニティとのつながりの希薄さなどから地域の中でのトラブルも多発している。このような状況から、互いに交流できる機会や外国人同士の交流の場などが必要となっている。

KPI①	外国人住民数の維持	基準値	年度	R1	R2	R3
		927人 (H30年度)	実績 目標値	146人増 (1,073人) 前年比 10人増	4人増 (1,077人) 前年比 10人増	△39人 (1,038人) 前年比 10人増
KPI②	多文化共生センターの延べ利用者数	基準値	年度	R1	R2	R3
		0人 (H30年度)	実績 目標値	100人 前年比 300人増	1,095人増 (延べ利用者数1,195人) 前年比 300人増	△61人 (延べ利用者数1,034人) 前年比 200人増
KPI③	地域が主体となって実施する外国人との交流事業の開催回数	基準値	年度	R1	R2	R3
		0回 (H30年度)	実績 目標値	1回 前年比 1回増	増減±0 (1回実施) 前年比 4回増	実施なし 前年比 5回増

**事業内容**

<多文化共生センターの主な取組>  
居場所・ネットワークづくり、異文化交流、国際理解の促進、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供など

<学校における外国人児童生徒サポート事業の主な取組>  
外国人児童生徒に対し、日本語を理解して学習に取り組めるようになるための日本語指導や、学校生活を安心して過ごせるための支援を実施



## ◆外部有識者による効果検証

検証の時期	令和4年7月
検証の体制	名張市地域活力創生会議による
市議会による効果検証の有無	有（時期：令和4年8月）
総合評価	地方創生に相当程度効果があった 多文化共生センターでは外国人住民から多種多様な相談を受け不安解消に向けて対応した。

**外部有識者からの主な意見**

- ・若者をはじめとする様々なコミュニティーを創ることや、それに関する地域活動などの経験は、若者などが流出の抑制につながると思う。
- ・若い世代が地域住民の方との関わることや、ミッションを通して、地域の課題を見つけたり、地域での面白さを見つけたりすることでもっと関わりたいと感じる自然な流れができた事例もある。若者流出の特効薬はないし、都市の財力には勝てない。地道ではあるがこうしたモデルが広がっていけば、名張市のセールスポイントになっていくのではと思った。

# 赤目チャレンジステーション整備事業

拠点  
整備

<b>事業年度</b> 平成30年度	<b>概要</b> 赤目四十八滝キャンプ場を「赤目四十八滝チャレンジステーション」として様々なニーズに対応すべく、幅広い用途に利用できるよう機能向上を図るための新築・改修工事を実施。自然体験・移住体験の受入にも対応できるよう整備を行う。
<b>事業費</b> 6,388万円	<b>背景</b> 室生赤目青山国定公園等の豊かな自然にある赤目地域は、近鉄大阪線の駅が地域内にあるなど利便性が高いことから、都市部住民の受入に適した地域であるが、従来型の観光が中心となっており、自然体験や農業体験といった新しいニーズに応える施設や体験メニューが整備されておらず、受入体制が整っていないことが課題となっていた。

KPI①	赤目チャレンジステーションにおいて研修を終えた新規就農者数	基準値	年度	H30	R1	R2	R3	R4
		0人 (H30年度)	実績	—	0人	0人	0人	0人
		目標値		前年比0人増	前年比1人増	前年比1人増	前年比2人増	前年比3人増

  

KPI②	赤目地域への年間転入者数	基準値	年度	H30	R1	R2	R3	R4
		55人 (H30年度)	実績	92人	3人増 (95人)	△20人 (75人)	△17人 (58人)	—
		目標値		前年比0人増	前年比2人増	前年比4人増	前年比6人増	前年比8人増

  

KPI③	赤目チャレンジステーションの年間利用者数	基準値	年度	H30	R1	R2	R3	R4
		3,306人 (H30年度)	実績	—	41人	△1,828人	△165人 (1,354人)	—
		目標値		前年比0人増	前年比50人増	前年比100人増	前年比150人増	前年比200人増

<b>事業内容</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤目四十八滝チャレンジステーション整備工事                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理棟、便所、管理棟・研修棟の屋根及び外壁改修工事</li> <li>・宿泊棟（空調、ベッドを設置）を4棟新築</li> <li>・シャワーブースを新築</li> </ul> </li> <li>○ケーブルテレビ及び無線LAN環境構築 など</li> </ul>



## ◆外部有識者による効果検証

検証の時期	令和4年7月
検証の体制	名張市地域活力創生会議による
市議会による効果検証の有無	有（時期：令和4年8月）
総合評価	—

<b>外部有識者からの主な意見</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤目地域だけの観光にとどめるのではなく、名張地区や青蓮寺区、美旗地区なども含めた形でやっていく必要がある。実際、観光客を受け入れるのは各地域になるので、地域住民の方の協力や理解がないと成り立たない。地域への支援が必要である。</li> <li>・新規就農で一番困難なことは農地の確保である。縁もゆかりもないところから来た人にいきなり農地を貸してくれる方も難しい。地域の方が仲介されることが一番スムーズであり、地域の方にアドバイスをいただける制度として大変有効であると思う。</li> <li>・地方創生や移住施策に取り組んだところで人が移動するだけのことである。この現実を受け止めながら、この中で何に特化し何を中心に選択集中して取り組むかだと思う。</li> </ul>

# “元氣・交流”拠点整備事業

拠点  
整備

<b>事業年度</b>	平成29年度	<b>概要</b>	中央公園内にある市民陸上競技場のスタンド下スペース等を改修し、単なる競技場ではなく、他のスポーツ施設も含め中央公園一帯を“元氣・交流ゾーン”としての新たな機能を持たせることで、生涯スポーツを通じた市民の健康づくりと、市民の交流と自治体間交流の機会向上、さらには新たな誘客を生み出すための拠点施設として整備。					
<b>事業費</b>	実績額 4,779万円	<b>背景</b>	市民陸上競技場は、平成28年度に全面芝生化及びトラックのウレタン塗装などの機能向上を図ったが、競技場横にあるスタンド下スペースについて、有力チームの試合や合宿などを誘致するためには、ミーティングルームの新設やロッカールームの機能向上などの環境整備が必要。					
<b>KPI①</b>	拠点施設の使用料収入	基準値	年度	H29	H30	R1	R2	R3
		162万円 (H28年)	実績	55.5万円増 (217.5万円)	△44.8万円 (172.7万円)	66万円増 (238.7万円)	△12.8万円 (226.4万円)	9.7万円増 (236.1万円)
			目標値	63.8万円増	20万円増	20万円増	30万円増	50万円増
<b>KPI②</b>	拠点施設の利用者数	基準値	年度	H29	H30	R1	R2	R3
		27,131人 (H28)	実績	16,284人増 (43,415人)	△3,725人 (39,690人)	8,484人増 (48,174人)	△2,549人 (45,625人)	△520人 (45,105人)
			目標値	12,869人増	1,500人増	1,500人増	2,000人増	5,000人増
<b>KPI③</b>	市外からの大会や合宿等の受入数	基準値	年度	H29	H30	R1	R2	R3
		3件 (H28)	実績	61件増 (74件)	△9件 (65件)	+0 (65件)	△36件 (29件)	3件増 (32件)
			目標値	5件増	5件増	10件増	10件増	10件増
<b>事業内容</b>	○陸上競技場スタンド下スペース等改修 ミーティングルーム、交流室の新設及びこれにあわせたロッカールーム（更衣室）とトイレの機能向上イートインやケータリング、グッズ販売等、大会やイベントに対応できる多目的スペースの新設 運営：マツヤマSSKグループ（2020年4月～）							



## ◆外部有識者による効果検証

検証の時期	令和4年7月
検証の体制	名張市地域活力創生会議による
市議会による効果検証の有無	有（時期：令和4年8月）
総合評価	地方創生に相当程度効果があった

外部有識者からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名張市は他市と比べると高齢化率が進んでいる。「生涯現役」として健康づくり施策に取り組みだされてきたように、高齢者の世代が現役で頑張っていたり必要がある。</li> <li>・「ふれあいセンター」には高齢者の方が卓球をしに来てくれており、元気でまだまだ働くことができる方もたくさん見受けられる。こういった年齢層の方が働く場があればと感じている。</li> <li>・人口減少は、日本全体の個数が減ることなので、都市部に人口が集中するのは当然で、地方創生や移住施策に取り組んだところで人が移動するだけのことである。この現実を受け止めながら、何に特化して何を選択集中して取り組むかだと思ふ。名張市は、近隣の周辺自治体の中核都市としての役割を持つ必要があると思っている。</li> </ul>
--------------	--

# 名張市テレワーク推進事業

テレワーク  
推進

事業年度	令和3年度	背景・概要 多様な働き方、働き口の創出、都市部からの新しい人の流れの創出として関西圏だけでなく、中部圏にも2時間程度で移動できるためテレワーク・サテライトオフィスの活用に効果が期待できるとして当該施設を整備する。
事業費	8,662万円	

KPI①	サテライトオフィス等施設を利用する企業数 (社・団体)	年度	R4	R5	R6
		実績			
		目標値	6社・団体	9社・団体	15社・団体

  

KPI②	サテライトオフィス等施設を利用する企業における所在都道府県外の企業数(社・団体)	年度	R4	R5	R6
		実績	-	-	-
		目標値	3社・団体	6社・団体	9社・団体

  

KPI③	サテライトオフィス等施設の利用者数(人)	年度	R4	R5	R6
		実績	-	-	-
		目標値	3,300人	6,600人	13,000人

  

KPI④	サテライトオフィス等施設の利用者における所在都道府県外の利用者数の割合(%)	年度	R4	R5	R6
		実績	-	-	-
		目標値	50%	66%	60%

  

KPI⑤	移住者数(人)	年度	R4	R5	R6
		実績	-	-	-
		目標値	30人	40人	50人

## 事業内容

コロナ禍により、新しい働き方が確立される中、本市への新しい人の流れの創出及び多様な働き方の推進、雇用創出を目的に、テレワーク、サテライトオフィス施設を整備・運営する事業者に対し、補助金の交付等を行いました。

- ①空店舗活用型      コワーキングスペースSHINYU
- ②スペース活用型    CoWorking Space ASPIA
- ③空き家活用型      FLAT BASE



7

## ◆外部有識者による効果検証

検証の時期	令和4年7月
検証の体制	名張市地域活力創生会議による
市議会による効果検証の有無	有(時期:令和4年8月)
総合評価	-

## 外部有識者からの主な意見

- ・専門家による人口の動きや意識調査などを検証や整理を行って、全体的な施策も行う一方で、例えば「移住なら移住」といった形で優先順位を付けた中で特化した取組を行ってはどうか。
- ・「リモートワークのまち名張」としてPRしてはどうか。テレワークの推進を行うため市内全域に5Gを整備して、商工会議所や企業などの関係団体はリモートワークの浸透を図り専門人材を確保するなど、市全体が連携して同じ方向で取り組んでいくことが必要だと思う。